２０１４年度　日本臨床歯周病学会歯周治療実態調査分析結果報告書

医療制度委員会

1）　資料採取と処理の流れ（機密厳守に関して）

会員からの情報　→　口腔保健協会（事務局にて番号付け）　→　委員長へ資料提供

→　各委員には整理したデータと分析結果のみ情報提供

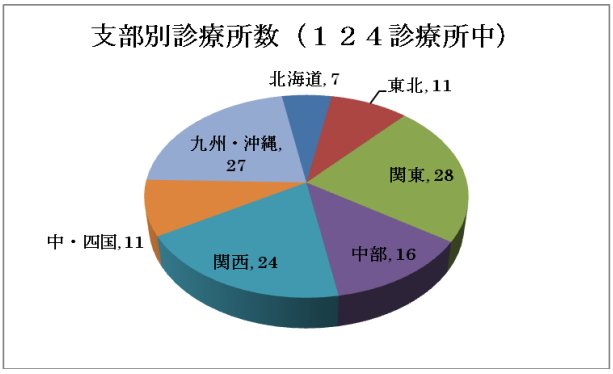
※　会員の情報は事務局以外に漏洩しないよう配慮

※　各委員には現在のところ整理したデータと分析結果のみ情報提供している（責任の所在）

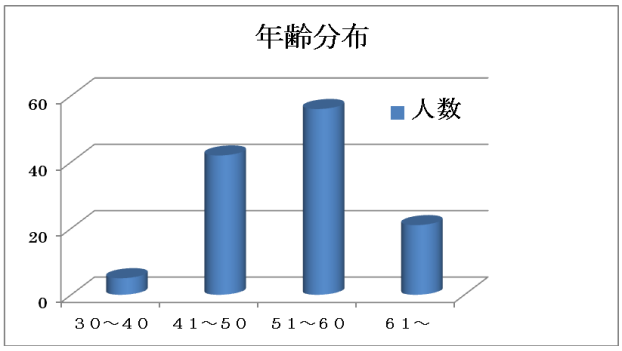
2）　分析結果

①診療所数　124 診療所

②支部別診療所　北海道支部　7
東北支部　11
関東支部　28
中部支部　16
関西支部　24
中・四国支部　11
九州沖縄支部　27

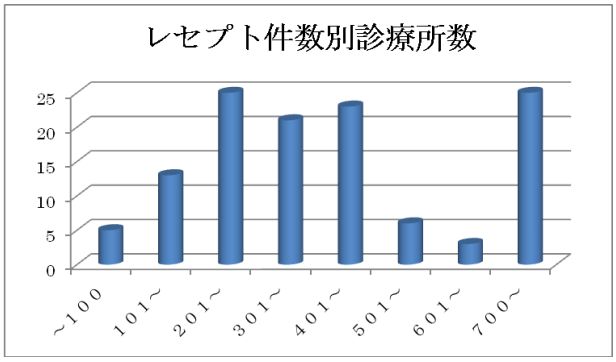


③年　齢　平均年齢 52.0 歳
（34 歳～72 歳）



④平均レセ件数　517 件（～3707 件）

おおむねレセプト件数 200～400 件の診療所が中心でしたが、今回はレセプト件数が 600 件を超える診療所も多く、平均レセ件数は 517 件と比較的高い数値を示した。



⑤全国平均との比較分析

	総件数	P 治療の割合(%)	P 治療の件数	歯周組織検査の件数			スケーリング	SRP の件数	
				基本	精密	P 混検		SRP	再 SRP
全国平均	178	54	96	58	8	3	54	59	12
学会平均	517	78	401	145	72	13	273	213	67

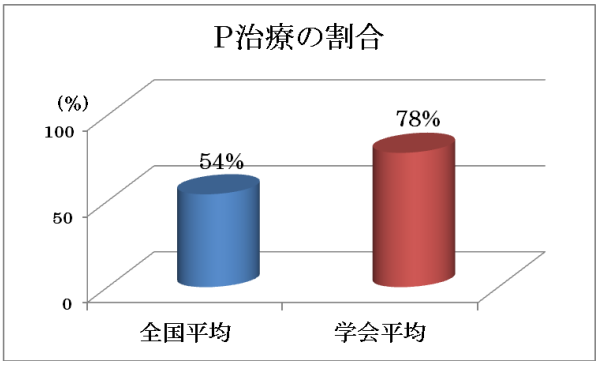
	Pcur の件数		歯周外科の件数					
	Pcur	再 Pcur	掻爬術	ENAP	GEct	FOP	GTR	歯冠側
全国平均	3	1	0.4	0.1	0.2	0.3	0	0
学会平均	10	4	8.1	0.6	0.5	5.3	0.1	0.1

	歯周外科の件数				SPT	暫間固定の件数			
	根尖側	側方	FGG	前庭拡張		エナメルボンド	連続鉤・床	レジン連続冠	その他
全国平均	0	0	0	0	1	1	0	0.2	0
学会平均	0.4	1	0.1	0.1	25	4	0	0.9	0.1

ⅰ）P・G治療の割合

総件数におけるP・G治療の割合は本学会平均が 78%と全国平均より高い値を示した。

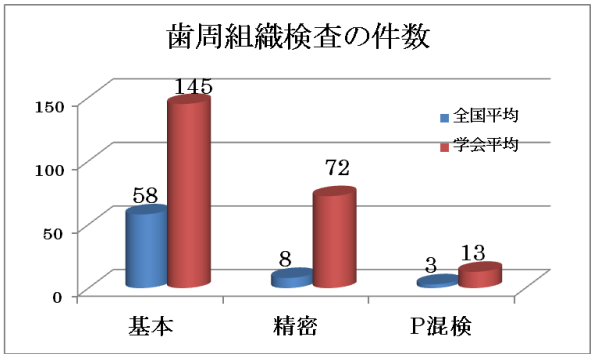
すべての調査内容で本学会平均が全国平均より高い値を示している。



ⅱ）歯周組織検査の件数

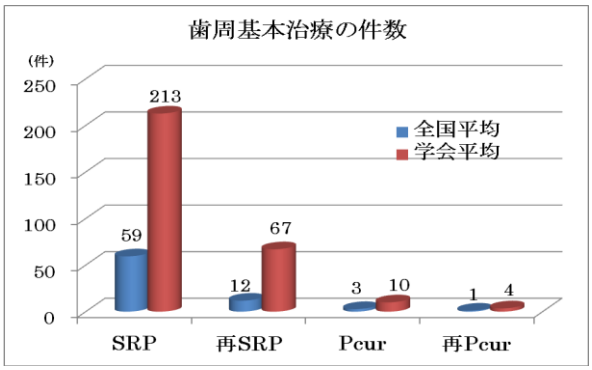
当学会では明らかに精密検査の頻度が高いことがわかる。

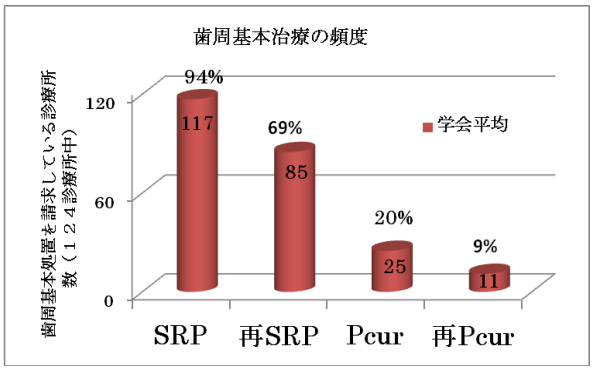
P混検の割合はどちらも少ない。



iii）歯周基本治療の件数と頻度

どちらも SRP・再 SRP の件数が多く、Pcur・再 Pcur の件数は少ない傾向が見られる。
処置を請求している診療所の数でみても明らかに Pcur の請求は少ない。



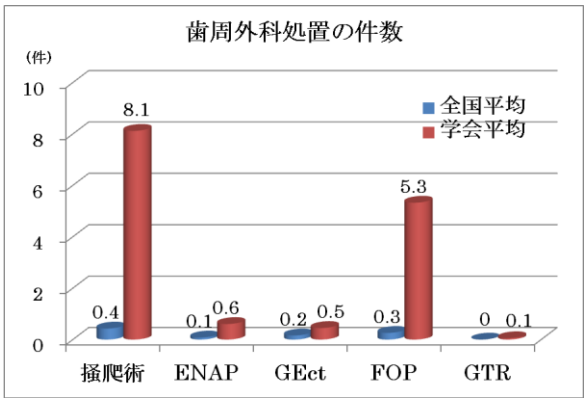


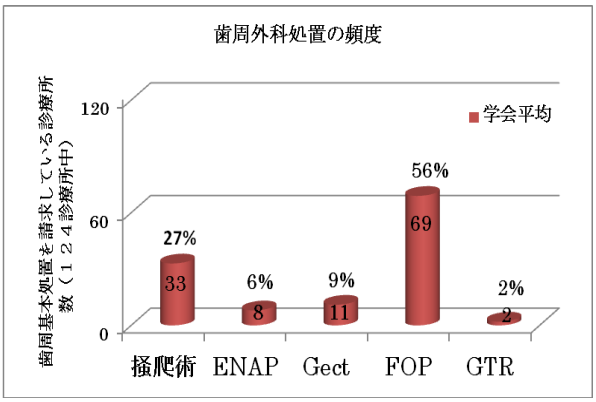
iv）歯周外科処置の件数と頻度

全国平均ではポケット掻把術の件数が多いが、学会平均ではポケット掻把術、FOP の件数が多く見られた。

全国平均・学会平均とも ENAP の件数は極端に少ない状況が見られ、GEct も少なかった。

歯周外科処置をおこなっている診療所数でみると、全体の 6 割から 7 割の診療所がポケット掻把術、FOP を行っていることがわかり、ENAP と GEct、GTR はやはり極端に少ない状況であった。

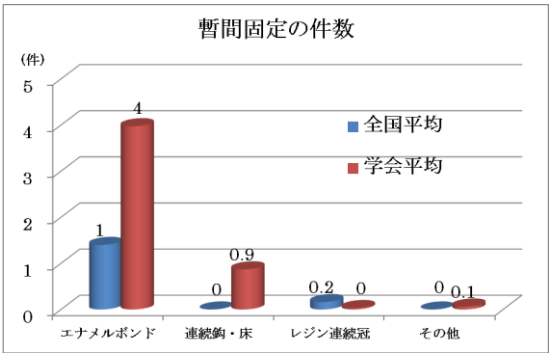


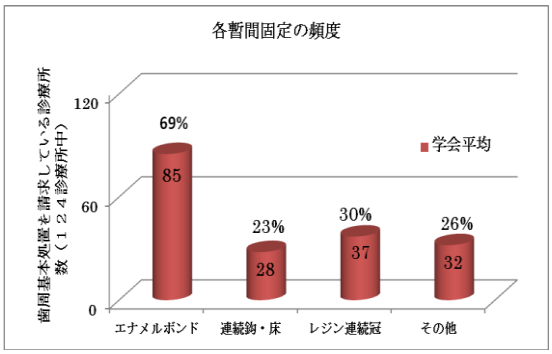


ｖ）暫間固定の件数と頻度

暫間固定に関しては、全国平均・学会平均ともそのほとんどがエナメルボンドシステムで、その他の固定方法はわずかであった。

暫間固定を請求している診療所数をみても、エナメルボンドシステムが全体の 69%を占め多く見られた。またレジン連続冠も 30%を占めていた。

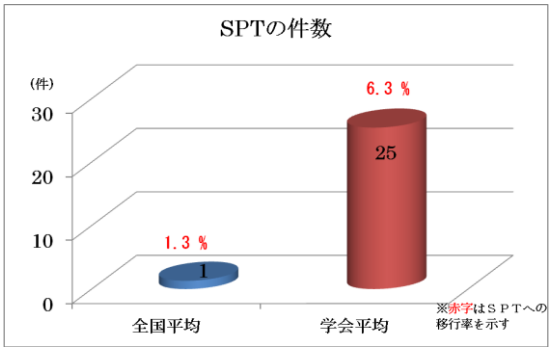




ⅵ）ＳＰＴの件数と移行の割合

SPT への移行率（SPT／P・G 患者）をみると全国平均では 1.3%、学会平均では 6.3%で、学会平均では比較的多く見られた。

しかし、SPT をおこなっている診療所は 124 診療所中 55 診療所（44%）で、9 診療所中 4 診療所にとどまった。



【　まとめ　】

① 当学会では全患者の約 80%に歯周治療をおこなっていた。

② 歯周組織検査では全国平均と比較して、精密検査の頻度が高かった。P 混合検査はわずかであった。

③ 歯周基本治療に関しては、学会平均のほとんどが SRP・再 SRP であった。

④ 歯周外科治療に関しては、全国平均・学会平均ともポケット掻把術、FOP の件数が多く、ENAP・GTR の頻度は極端に少なかった

⑤ ポケット掻把術に関しては、当学会でもある程度見られ、約２７%の診療所で実施されていた当学会での歯周外科処置ではやはり FOP の件数が多く、約５６%の診療所で実施されていた。

⑥ 暫間固定に関しては、全国平均も学会平均も共通してエナメルボンドシステムが多かった。

⑦ SPT への移行率は６．３%であったが、実際おこなっている診療所数は全体の 44%であった。